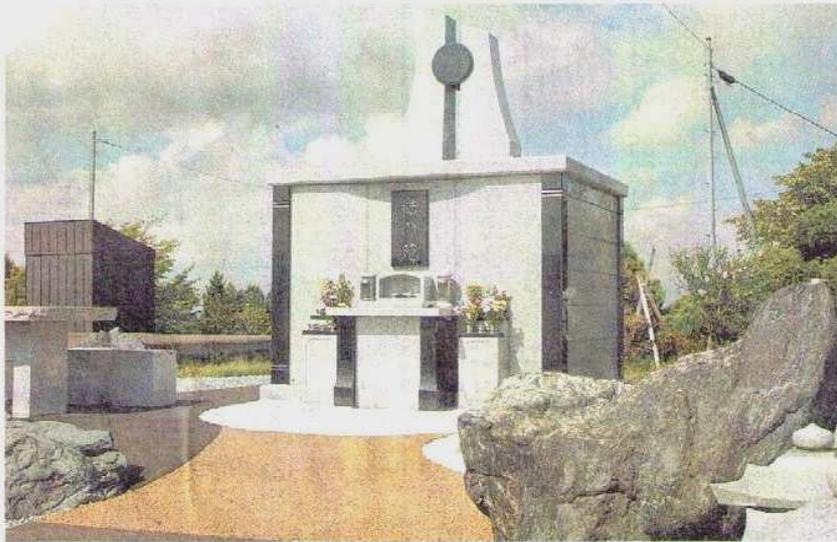


新たな弔い 合同墓浸透

北海道中央霊園(三笠市)は園内に今年、合祀墓地「結の苑」を建設した。昨年5月に理事長に就任した武田寛さん(52)は、50〜60代の中央霊園の墓の所有者から「墓を継ぐ子どもがない」「子どもが遠方にいる」といった墓の継承の悩みを聞き、「とにかく急いで対応しなければと思います」と合同墓の必要性を痛感し建設に踏み切った。「結の苑」は雪解けとともに着工し6月に完成。モニュメントの地下に約2千体の遺骨が収納できる。

使用料は1体3万9千円で、通常のお墓と同じように遺族が日を指定して埋葬でき、その後の管理費などはかからない。開園中であれば自由にお参りができ、お盆には墓参りの人も目立った。現在約70人分の遺骨を収納。8割が道内、2割が道外で北海道にゆかりのある人だ。夫婦単位など生前契約も50人ほどに達している。

少子高齢化 維持悩み背景



6月にできた北海道中央霊園の合祀墓地「結の苑」 三笠市